

# 諦めない気持ちの結果につながる

～一級建築士～

### 受験の動機・経緯

大学時代から一級建築士へのあこがれがありました。社会人となり、建築系の技術職員として職場で頼られる存在になりたいと思うようになり、初年度の受験に向けて社会人2年目から勉強をはじめました。仕事をしながら資格取得のために費やせる時間は限られている中、短期間で集中的に勉強できる環境を整えるため、学科・製図共に資格学校に通うことにしました。結果的には、初年度は学科試験で落ち、翌年2回目の受験で合格することができました。私の体験記が、今後受験される方の参考になればと思います。

### 学科試験における傾向と対策

学科試験は法規、構造、施工、計画、環境設備の5科目で構成されています。各科目の出題範囲は広く、問われる内容も非常に細かいため、効率よく学習をし、過去問を中心に一つずつ正確な知識を積み上げていくことが重要になります。

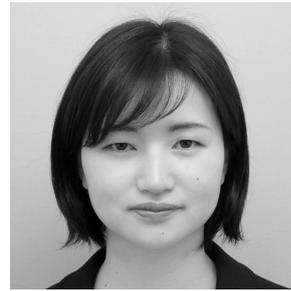
私は得意科目と苦手科目が極端で、初年度受験のときは苦手科目の勉強が追いつかず、大きな弱点に

なっていました。今振り返ると、理解できていない部分を丸暗記しようとし、時間が足りなくて中途半端な知識しか身につけられていませんでした。その反省から、2回目の受験では苦手科目の克服を最優先に考え、時間をかけて向き合うようにしました。丸暗記ではなく、理解して問題を解くことで応用問題にも対応できるようになり、得点を上げることができたと思います。他にも具体的な対策として、問題集の解き方を見直し、4択中の正誤がわからない枝を放置しないようにしました。間違えた問題は一週間以内にもう一度解き直し、正解できるまで続けることで、知識の定着を図りました。また、継続した勉強時間の確保のため、通勤時間やお昼休み等のスキマ時間を積極的に活用し、仕事の繁忙期でも勉強のリズムを崩さないようにしました。特に難しいと感じていた施工については、現場の動画・写真等を見て具体的なイメージを持ち、寸法や日数などを正確に覚えました。また、新規問題が多く出題される計画と環境設備は自然災害やエネルギー問題などの近年建築に関わる社会問題にアンテナを張り、対応できるようにしました。

## 製図試験における傾向と対策

製図試験は時間勝負で、6時間半で設計条件を正確に読み取り、エスキスから作図・記述までを一気に仕上げなければなりません。そのためには、時間を有効に使い最後まで描き上げることと、与えられた設計条件を正確に図面に反映させ、敷地条件や構造等に矛盾がない“減点されにくい”建物を計画することが重要になります。また、学科試験から製図試験までの期間は3か月程しかなく、出来るだけ多くの課題をこなして、短期間で精度を高めていく必要があります。

具体的な対策については、まず設計条件文の読み取りは時間をかけず正確に行うために4色のマーカーを使い、重要な数字や細かい条件を塗り分けました。それにより、読みこぼしや読み間違いを減らすことができ、後からも見返しやすくなったと思います。エスキスに関しては、階段や廊下の寸法、機械設備の特徴はパターン化して覚え、悩む要素を減らして時間短縮を図りました。その分ゾーニングは慎重に行い、使いづらい建物ではないか不自然な配置はないか等を常に意識するようにしました。また、作図のスピードを上げるために、毎日1時間トレースの練習をしました。それにより、本番では時間に余裕が生まれ、落ち着いて取り組むことができたと思います。



滋賀県 土木交通部 建築課  
技師

あさい りほ  
**浅居 里歩**

(取得した資格：一級建築士  
資格取得年度：令和元年度)

## おわりに

今後受験される方に向けて、資格勉強は自分との戦いです。仕事と勉強の両立は想像以上に大変で、精神的にも体力的にもきついです。最後までモチベーションを維持して継続すれば、必ず結果はついてきます。私は、職場の先輩方や家族に支えられながら、受験という貴重な経験を通して技術者として大きく成長し自信をつけることができました。勉強で身についた知識は必ず自分自身のステップアップにつながっています。諦めない強い気持ちで、果敢に挑戦してください。

